

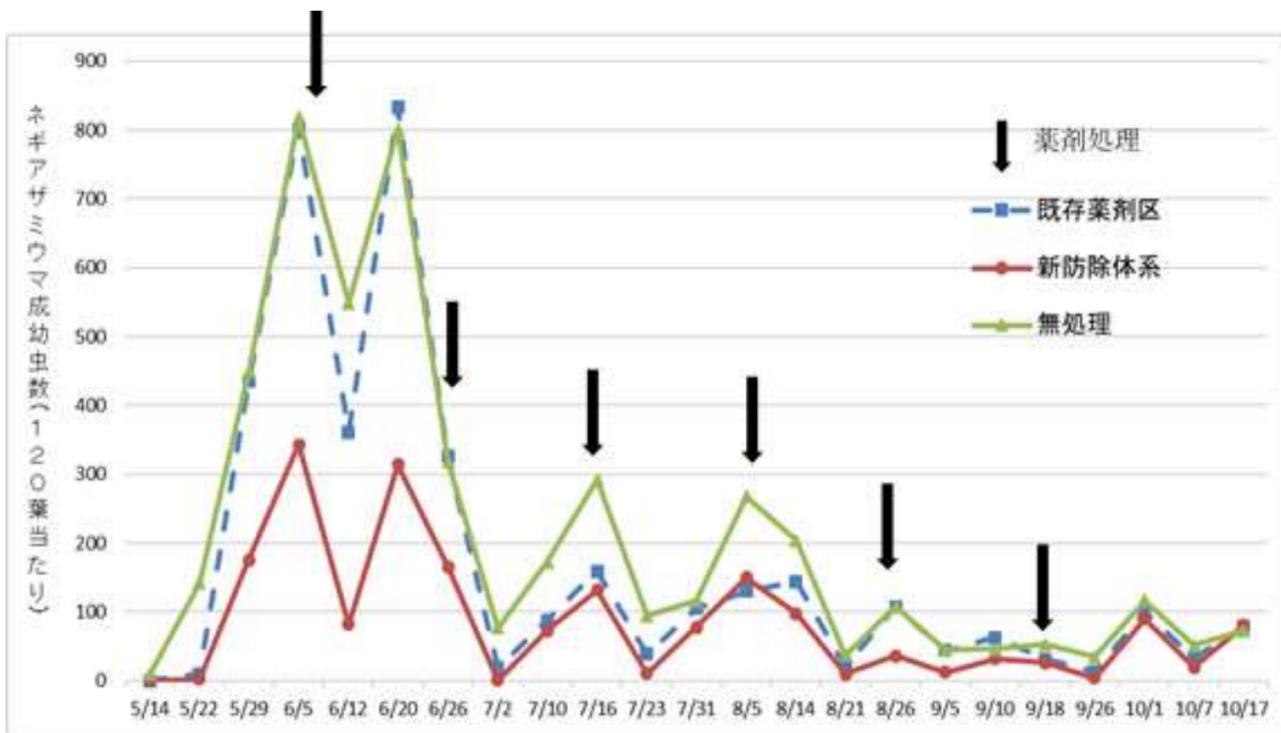
白ネギ栽培におけるネギアザミウマに対するローテーション防除の効果

白ネギの害虫であるネギアザミウマについては、カーバメート系、ネオニコチノイド系、合成ピレスロイド系、有機リン系等の薬剤に対する抵抗性が既に確認されています。既存薬剤の防除効果を維持するため、同一系統の薬剤連用を避けたローテーション防除体系の防除効果を確認したので紹介します。

10月どり作型における防除体系の効果比較

防除体系	処理時期 定植時 (5月8日)	6月6日	6月26日	7月16日	8月5日	8月26日	9月19日
既存薬剤区	アルバリン顆粒水溶剤	ベストガード粒剤	ディアナSC	ハチハチ乳剤田マッチ乳剤	スピノエース顆粒水和剤	ベストガード粒剤	ディアナSC
新防除体系	ベリマークSC	アグリメック	グレースシア乳剤	ファインセーブフロアブル	リーフガード顆粒水和剤 +マッチ乳剤	ベストガード粒剤	ディアナSC
無処理区	—	—	—	—	—	—	—

耕種概要： 品種：‘関羽一本太’、播種：2019年2月20日、定植：5月8日



新防除体系の使用薬剤と系統名

薬剤名	系統名
ベリマークSC	ジアミド系
アグリメック	アベルメクチン系
グレースシア乳剤	イノキサザリン系
ファインセーブフロアブル	未分類
リーフガード顆粒水和剤 +マッチ乳剤	ネライストキシン類縁体 +ベンゾイル尿素系
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系
ディアナSC	スピリジン系

図1 ネギアザミウマ成幼虫数の経時推移

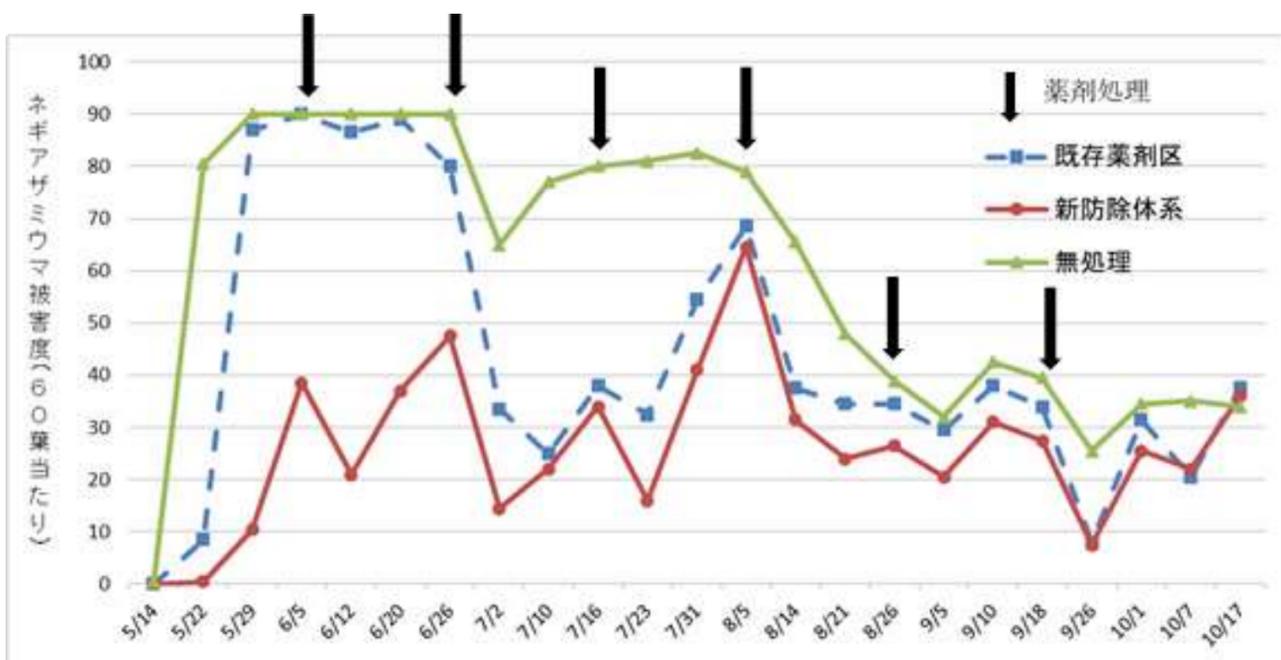


図2 ネギアザミウマによる被害度の経時推移

同一系統の連用を避けた新防除体系は既存の体系と比較して、同等以上の防除効果を示しました。(図1, 2)

※本試験は、境港市中海干拓地の弓浜砂丘地分場内のネギ圃場にて調査を実施しました。ネギアザミウマの個体群は、地域によって優占種が異なり、防除効果が異なる可能性があります。薬剤によっては既に抵抗性が発達している可能性があるため適宜薬剤感受性の検討が必要です。